

秋の彼岸によせて

平成二十二年九月 大乘寺 住職 岡 光俊

正しく生きて初めて楽しく生きられる。

ここでしっかり押さえておかなければならないことがあります。

それは、正しい、という基準です。人々は皆、自分の基準が正しいと決めつけています。あらゆる項目の正しい基準が自分自身、個が正しい基準であることを、深く深く知っておくことが重要です。

夫婦であっても、親子、兄弟姉妹、同僚、友達、どのような人間関係でも、個々一つ一つすべて正しいが違うのです。このことを知っているだけで、悲しみ、苦しみ、悩み、イライラ、怒り、が随分解消されるものです。

悩み苦しきは、正しい基準のズレから生じていることが多いものです。

親は子に正しいと思うことをしてくれたいことを望みます。しかし、物事を形にしたり、言動で表現し実行するためには器が必要です。器ができていないのに強要すると自己崩壊か反発をします。この反発が一般にいう反抗期なのです。

反抗期も一般には子供が当たり前に通る道、また子供が悪いからと誤解されています。反抗は、子供の器を押し量れない親の無知や親の器のなさから起こる、子供の自己防衛の信号です。

親や大人たちは、自分の立場や力が子供より勝っている分、大きな優しさが欲しいものです。自分の正しさを押しつけたり、認めさせようと思わなければ、怒りは表れません。

正しく生きていくのに、正しく生きようとしているのに、人に迷惑をかけずに生きていくのに、人のためになること、役立つことを

しているのに……。でもその前に個々の正しい基準の違いに気づき、個々に正しさのあることをもつと深く知ること、そして認めていく優しさが必要ということ。このような心は、佛智ぶつちを頂かなければ身につくものではありません。

秋の彼岸、ご先祖さまと共の生活をさせて頂き、親子であっても、自分の正しいと相手の正しいが違うことを何時いつも思いだし、意識をしながら話をしていけば、今までに気づかなかった相手が見えてきたり、自分の拘りが見えたりするものです。

そして、個々の正しさを皆が持っていることに気づいた上で、佛さまが正しいとされる心の持ちかた、モノの見かたを身につけていかれると、佛さまの智慧も皆さまの日常生活に生き活きと活かされることでしょう。

秋の夜長、ご自身の正しさと、佛さまの正しさを見比べることも、一生に一度はなさっても面白いかもしれませんね。